



地域活性化などを題材にした専門家の講演があった「ローカルサミット in 松山・宇和島」
—21日、松山市道後公園

講演や事例報告 町おこし考える

松山・サミット開幕

全国の町おこし関係者らが、地域活性化を話し合う「ローカルサミット in 松山・宇和島」が21日、松山市道後公園の子規記念博物館で開幕した。23日ま

で同市と宇和島市で専門家による講演などがある。

同サミットは、大学教授や公務員らでつくる任意団体の場所文化フォーラム(東京が、昨年北海道で初めて開催。2回目の今回は、四国4県の第二地銀の労働組合などが参加す

る特定非営利活動法人(NPO法人) ループ88四国(松山市)や愛媛銀行(同)が、同フォーラムなどと協力して開いた。

初日は約200人が参加。国際日本文化研究センター(京都市)の安田喜憲教授による講演や、県内外の地域活性化事例報告などがあった。

安田氏は「新たな生命文明構築の視座」と題し、自然と人間の共存モデルとして南予の段々畑を紹介。「段々畑は自然を利用できる限界まで利用しながら、決して殺してはいない。この自然に対するノウハウを、環境問題に直面する世界に対し、愛媛から発信してほしい」と話した。